

屋根に塗るだけで
省エネ&エコ

エアコン消費電力削減と
CO₂排出量削減に貢献!

ALES COOL

アレスクールシーラー

弱溶剤2液変性エポキシ樹脂
屋根用高日射反射率(遮熱)下塗り塗料

塗料タイプ

変性エポキシ樹脂

弱溶剤系

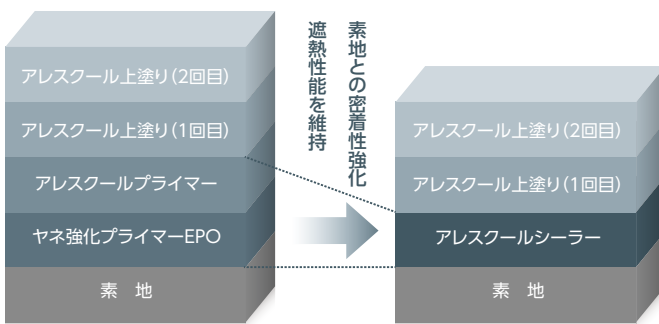
2液形

- 容量: 16kgセット (15.2kg/0.8kg)
- 色: 白

特長

- 1 アレスクールシリーズの専用シーラーで、上塗りを透過した赤外線を効率よく反射します。
- 2 アレスクールの赤外線反射システム「Wブロック効果」を有しています。
- 3 従来のアレスクール窯業系屋根の塗装仕様(4工程)より工程削減となる3工程仕様を確立しました。

窯業系屋根のアレスクール3工程化



特殊浸透補強成分を配合することで含浸・固化を強化して3工程仕様を確立しました。

主な適用素材

- 窯業系屋根材 (新生瓦・波形スレート)

主な適用上塗り

- アレスクール2液F、アレスクール1液Si、アレスクール2液Si
アレスクール2液U、アレスクール水性F、アレスクール水性Si

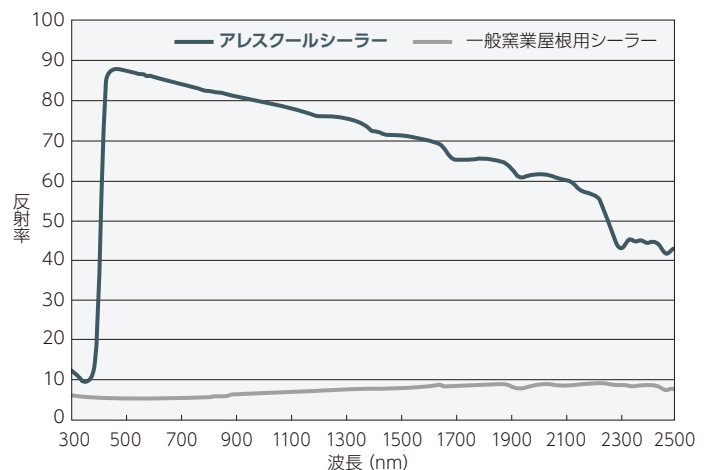
消防法による危険物区分

- ベース: 指定可燃物可燃性液体類
硬化剤: 第4類第2石油類 (非水溶性)

下塗り塗膜の分光反射率(JISK5602準拠)

測定機器: 株式会社 島津製作所 Solid Spec-3700

測定方法: 黒色系の窯業系屋根素材の上に「アレスクールシーラー」と一般窯業系屋根用シーラーを塗装して日射反射率を測定。



アレスクールシーラー

塗装仕様	工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈材 (希釈率)	
新生瓦・ 波形スレート屋根材 標準塗り替え仕様	1	素地調整					
	2	下塗り	アレスクールシーラー	0.20~0.35	ハケ・ローラー・(エアレス)	8時間以上7日以内	塗料用シンナーA (0~5%)
	3	上塗り (1回目)	アレスクール2液Si	0.22	ハケ・ローラー・(エアレス)	4時間以上7日以内	塗料用シンナーA (5~15%)
	4	上塗り (2回目)	アレスクール2液Si	0.22	ハケ・ローラー・(エアレス)	—	塗料用シンナーA (5~15%)

※所要量は下地や塗膜の劣化状態(吸い込み状態)、塗装方法、環境などによって増減する場合があります。

窯業系屋根材の適用範囲

アレスクール3工程仕様は、表面劣化度(中)までの窯業系屋根材に適用できます。

表層劣化が進行した表面劣化度(大)の場合、下塗りにヤネ強化プライマー-EPOを使用し脆弱層を強化後、アレスクールシーラーを塗装して下さい。

表面劣化度(小)



表面劣化度(中)



表面劣化度(大)



劣化
状態

塗膜の剥がれ等が部分的に認められるが、
下地は健全な状態。
(目安:新設後、又は塗替え後10年程度経過した屋根材)

塗膜の剥がれは(小)より認められるが、
下地は健全な状態。
(目安:新設後、又は塗替え後10~15年経過した屋根材)

全体に塗膜の剥がれが見られ、下地表層は脆く、
吸込みが大きい状態。
(目安:新設後、又は塗替え後15年以上経過した屋根材)

〔注 意〕表面劣化度(小)、(中)でガムテープによる付着試験で下地表層に及び塗膜剥離が見られる場合は、
下塗りにヤネ強化プライマー-EPOを使用し脆弱層を強化後、アレスクールシーラーを塗装して下さい。

施工上の注意事項

- ◎本注意事項及びご使用になる上塗りのリーフレットに記載の注意事項を必ずご確認の上、施工を行ってください。
- ①アレスクールシーラーは、窯業系素材(新生瓦やスレート瓦等)専用のシーラーとなります。
- ②塗装後、降雨や結露などで白化した場合や塗装間隔が7日以上になる場合は目直しを行ってから再度塗装してください。
- ③アレスクールシーラーはベースと硬化剤がセットになっている2液型の塗料です。所定の割合(重量比)で混合して、十分攪拌した後にご使用ください。また、調査した塗料は、必ずその日のうちに使用してください。長時間経過した塗料を塗装した場合、塗膜性能が低下します。
- ④品質が保持する塗膜性能を十分に発揮させるために、専用の上塗り及び所定の塗り回数と膜厚確保による施工を行ってください。
- ⑤トタン素地露出部はアレスクールプライマーまたはアレスクールメタルプライマーで補修塗りを行い、その後標準塗装仕様で塗装してください。
- ⑥下地調整が不十分な場合には、塗膜剥離の原因となったり、光沢がでないもしくは艶むらが発生するなどの仕上がりが不良が生ずる恐れがあります。塗り替えの際には、必ず高圧水洗・ブラシなどによる水洗を行い、付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。
- ⑦高圧水洗を行うと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。
- ⑧洗浄後、新生瓦の破損、役物の釘浮き、シーリング切れなどチェックを行い、補修が必要な場合には適切な処置を行ってください。

- ◎新生瓦などの被塗面が雨・露・霜などで濡れているときは十分に乾燥させてください。未乾燥で塗装するとフクレ、塗膜剥離、フシなどの原因となりますのでご注意ください。
- ⑩降雨の予想される日の塗装、および気候が5℃以下となる日の塗装は避けてください。
- ⑪塗装時および塗装後、または未乾燥の時に雨や夜露にあたると艶引けを起こすことがありますので十分にご注意ください。また、高湿度で塗装した場合でも同様の現象が起こることがありますのでご注意ください。
- ⑫希釈シンナーは必ず、適切なシンナーを使用してください。その他のシンナーを使用した場合、チヂミや再溶解などが生じる可能性があります。
- ⑬弱溶剤型の塗料を使用した場合には、ハケ、ローラー、塗装機などの洗浄には、ラッカーシンナーをご使用ください。
- ⑭エアレス塗装では塗装ミスの飛散により周辺を汚し、トラブルの原因となることがあります。塗装ミスが飛散しないように十分な養生を行ってください。
- ⑮塗装後、水切り部で住宅用屋根スレート(カラーベスト、コロニアルなど)の重なり部分が塗料で詰まった場合には、皮すきなどで必ず縁切りを行ってください。瓦の上下に隙間がないと結露水の通気不可能であり、漏水や素材の腐食、塗膜剥離、フクレなどにつながる恐れがあります。
- ⑯粘土瓦(いびし瓦、釉薬瓦など)やコンクリート瓦(モニエル瓦など)への塗装は絶対に避けてください。塗膜剥離などの原因となります。

ご使用上の注意事項

■ 下記の注意事項を守ってください。 ■ 詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

予 防 策

取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。
火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
本来の目的以外に使用しないこと。
指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
取り扱いは、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

対 応

目に入った場合:直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合:直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診

察を受けること。
吸入した場合:空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

保 管

指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

廃 棄

本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

施工後の安全

本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL(0133)64-2424 FAX(0133)64-5757
東北 TEL(022)287-2721 FAX(022)288-7073
北関東 TEL(028)637-8200 FAX(028)637-8223

東京 TEL(03)5711-8905 FAX(03)5711-8935
中部 TEL(052)262-0921 FAX(052)262-0981
大阪 TEL(06)6203-5701 FAX(06)6203-5603

中国 TEL(082)262-7101 FAX(082)264-3285
四国 TEL(0877)24-5484 FAX(0877)24-4950
九州 TEL(092)411-9901 FAX(092)441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご諒承ください。

(21年07月04日PKO) カタログNo.730